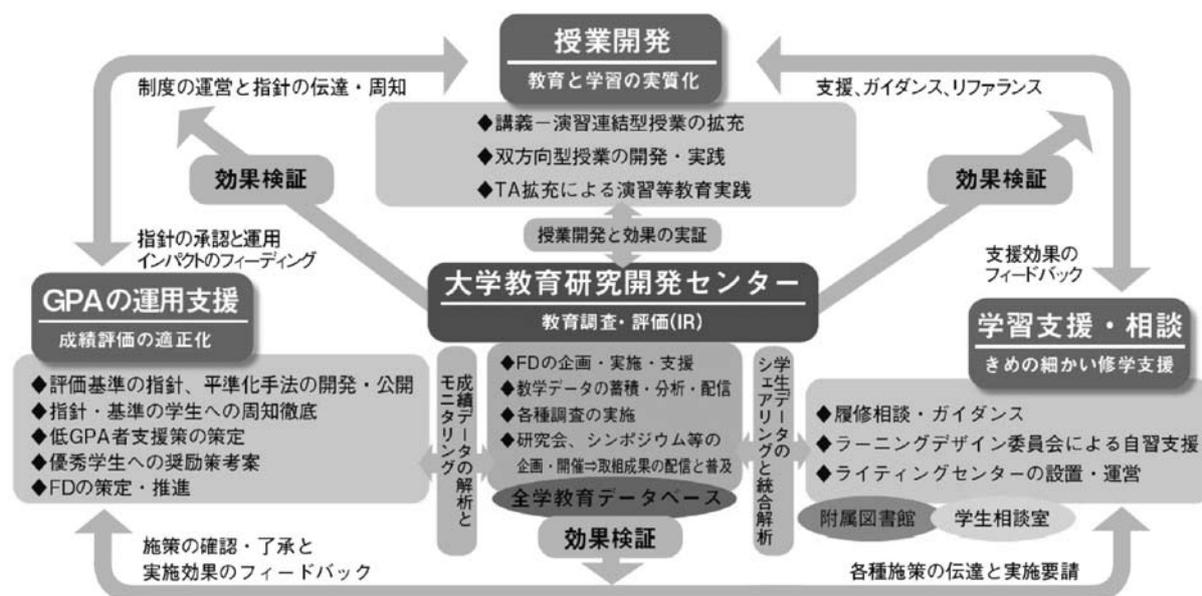


## 単位実質化マキシマムモデルの実践と普及

松塚ゆかり（大学教育研究開発センター）

平成22年11月に始動した本事業は、平成23年度前半にはその基盤をほぼ確立し、以後順調に、また発展的に進行してきた。23年度の活動を報告するために事業の概要を簡単に振り返る<sup>1</sup>。

本取組は、1. 成績評価の適正化、2. 授業外学習を促す授業開発と実践、3. きめの細かい修学支援を相互に連動させつつ、2006年度より本学で実践されてきた IR（Institutional Research: 教育調査研究）をこれら三つの活動をつなぐカタリストとして据えることにより、各活動及び全体の効果を検証し、その結果を次の活動へと反映させる PDCA サイクルを設計していくことを課題としている。活動の枠組みは以下のように示される。



左方にある「GPAの運用支援」では、2010年度より一定の GPA 値が卒業要件となったことに対応し、①制度が順当に機能することに資する支援体制を構築することと、②制度の効果と妥当性を検証することが主な活動であった。①の分野では、(ア) 全学、部局レベルでの FD 並びに勉強会の企画と開催、(イ) 評価基準の明確化と評価平準化の手法検討、(ウ) 評価基準の公開促進などを進めてきた。②では IR 部門において、(ア) 成績推移と履修行動のモニタリング、(イ) 成績不振者の理由説明を試み、その結果が修学支援活動へと反映し得るよう、これまでの IR 活動の拡充を図ってきた。また IR での分析結果は、GPA 卒業要件値やキャップ制の見直し、ゼミ、卒論などの要件値除外科目の再検討、段階的要件設定の考案など制度面の見直しのための材料となるよう、適宜学内専門委員会へ報告する

<sup>1</sup> 事業計画の詳細については、2010年度年報の25ページから48ページを参照されたい。また、本 GP 事業のこれまでの活動を総括する報告書も2012年3月に出版される。

べく IR 体制の再設計が行われた。

「授業開発」の分野では学習の質と量の向上を目標に、「講義—演習連結型授業」を中心とした双方向型授業を拡充しその効果を実証することを課題としてきた。「講義—演習連結型授業」は、講義と少人数のグループに分けた演習を組み合わせ、それぞれのグループに TA を配し双方向型の学習を促しつつ授業外学習量を増やすという、欧米では定着したフォーマットである。本学では言語社会研究科の佐野泰雄先生が早くよりその重要性に着目し学内外の複数の教育支援プロジェクトを通して普及が図られ、またその効果を実証、報告してきた<sup>2</sup>。本 GP 事業はこれらの経験から得られた知見をもとに、「応用演習」「論文指導」「実験と応用」「リメディアル演習」「グループ学習・発表」という演習形態別の枠組みを設計し、学習効果を高めるさらなる授業・学習形態を開発・実践することを目指してきた。本活動報告の25ページから26ページに報告が掲載されている。

「修学支援」の分野では、履修ガイダンス、学習方法の指導、学習相談室の設置、ライティングセンターの設置などを通して履修指導と学習支援を行った。これらの活動は学生支援センター並びに附属図書館との綿密な連携により実現したものである。詳細は27ページから32ページをお読みいただきたい。さらに、大学における教育と学習のあり方をより長期的に検討するために、一橋大学卒業生に対するグループインタビューを実施して、職場で求められるスキルや能力について検討している。詳細は33ページから36ページに報告されている。

最後に、IR はこれら三つの活動「GPA 運用支援」「授業開発」「修学支援」をつなぐカタリストとして位置づけられており、各活動および取組全体の効果検証と検証結果のフィードバックを行ってきた。特に、GPA 本格導入に伴い、データの蓄積、加工、分析を敏速かつ正確に行うこと、さらに、それら分析の結果を各部署、教員、職員間で広く共有することが重要な課題であることを認識し、23年度にはこれまで構築してきた「全学教育データベース」を拡充、セキュリティーを強化し、データ共有のためのアプリケーションを教務課の「教務・事務電算システム」に導入している。詳細は37ページから39ページに報告している。

8月1日には同事業の進捗状況を報告する公開シンポジウムを開催した。文部科学省より磯田文雄高等教育局長を迎え、「教育情報と教育の質保証」を演題に記念講演をいただくとともに、本学 GP の各活動について成果と課題が共有された。約100名が参加し、記念講演と各事業報告に関して活発な質疑が行われた。

以下の報告は上記シンポジウムの内容と一部重なる部分もあるが、2011年夏以降の進展も含めて、三つの活動別に本事業の成果概要を報告する。

<sup>2</sup> 『講義＝演習連結型授業の創出、実践、普及 — 単位実質化の試み』(2010) 2009年度一橋大学・大学戦略推進プロジェクト報告書、並びに、『講義＝演習連結型授業の創出—「単位実質化」の実質化』(2009) 2008年度一橋大学教育プロジェクト報告、等を参照されたい。